

(社会)

一人一人の子どもが意欲的に調べ・考え・判断する社会科学習

－ 児童一人一人の社会的な見方・考え方を深める聖和トライアングル －

大阪市立聖和小学校

塩根航平 立野岡珠美子 千葉藍子

1. 研究主題設定の理由

これまでの研究により、子どもが意欲的に調べ、考えたことを表現する姿は確実に身に付いてきている。しかし、何を調べてよいか分らなかったり、自分の考えをもてなかったりする子どもがいることもある。そこですべての子どもが学習に意欲的に参加し、問題に対して自分の考えをもち、話し合い活動を通してさらに深い学びができ、学級全体で論理的思考やそれらを表現する力を育成することをめざし、上記の研究主題を設定した。

2. 研究の趣旨

本校では社会科（1・2年生は生活科）を中心に実践的な研究を進めてきた。特に、板書・ノート指導・話し合い活動の相互の関連をはかり「聖和トライアングル」として取り組んできた。その中で、子どもに自分なりの考えを持たせる指導や集団で思考を練り合わせる指導、集団作りと話し合い活動の工夫などの研究を深めてきた。

「主体的で、対話的な深い学び」を実現していくために、学習内容としての知識を構造化し、子どもの「問い」と関連付けて解決していく問題解決的な学習の深化が求められる。

社会科では問題解決的な学習を進め、発足以来児童の主体的で対話的な学びを中心においた実践を重ねてきた。今年度は、全ての子どもが学習に主体的に参加し、問題に対して自分の考えをもち、学級全体で論理的思考やそれらを表現する力を育成することをめざし「何を・どのように・何で学ぶか」の3点を重点として研究・実践を進めた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点1 何を学ぶか（学習内容の焦点化）

① 社会的な見方・考え方の焦点化

社会科の学習を焦点化するとは、社会的な見方・考え方を明確にし、絞り込み、具体的にすることである。まずは社会的な見方・考え方を「単元レベル」で設定し、その単元で学ぶ内容を明確にする。

② 問いの焦点化

問いで気を付けるのは問口の広さである。

基本的に When/Who/What/How/Why/Which/のいずれかを問いに使用し、問いを焦点化することにより、どの子どもも意欲的に学ぶことができると考えた。

視点2 どのように学ぶか（聖和トライアングルによる学びのスタンダードの発展）

① 考えをうながし、理解を深める「ノート指導」

① 本時の問い ② 調べる活動 中心となる学習資料	③ 考える活動 ・ 自分の考え ④ 友だちの考え ④ まとめ ⑤ ふりかえり
---------------------------------	--

上記のように、ノートは、第3～6学年で共通とし、学年が上がってもとまどうことなく活用できるようにした。原則として、1小単元（45分授業）で見開き2ページを使用する。

②思考をうながし、理解を深める「板書の工夫」

板書は、重要事項を記録しておくだけのものではなく、子どもを本時の学習活動が向かうべき方向へと導く「地図」でなくてはならない。特に、話し合い活動を効果的に進めるためには、その学習集団の全員が一緒に見ることができ、話し合い活動の手がかりとなる内容や、現時点に至るまでの本時の学習の軌跡が書かれている板書が必要である。

③学んだことを豊かに表現し、共に学び合う「話し合い活動」

どの子どもも話し合い活動に参加できるようにするために、全体での話し合いに先立って、二人またはグループでの少人数での話し合いを行うようにした。これは、全体での発表にむけての練習にもなり、話していく中で、自分の考えの修正をしたり、友だちからの意見によって気付きを得たりすることができる。

「ノート指導」「板書の工夫」「話し合い活動」はどれも「言語活動」であり、相互に深く関わり合っている。この3要素を連動させて指導を進めることで、子どもの学びをより効果的に深めることができる。

視点3 何で学ぶか（ICT機器を活用した授業づくり）

① 子どもが主体的に学ぶ資料提示

導入でIWB（大型TV）に資料を提示することにより、子どもはより意欲的に学ぶことができると思う。それもただ提示するのではなく、資料を加工することでその効果が増すと考え、「空欄を作る」「アップにする、ルーズにする」「ダウトを入れる」など工夫して資料提示を行ってきた。

② 子どもが深く学ぶための資料づくり

昔の道具の使い方や自動車の作り方などを調べる際には、実際に見たり体験したりすることがよい。しかし、実際は教室に実物を持ってきたり、なかなか見学に行ったりすることが容易でないことが多い。そのような場合に、動画資料を活用することは1つの有効な手段であると思う。

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

問いを焦点化することで何を学ぶかが明確になり、子どもが意欲的に学ぶことができた。また、「聖和トライアングル」により、全員が自分なりにノートを書くことができ、自分の考えをもつことにつながった。そして、ICT機器の活用により、短時間で分かりやすくなり、事実への理解が深まった。

（2）今後の課題

授業の中で初めて知る内容が多すぎると学習内容が分かりにくくなってしまう。学習内容を精選しさらに焦点化していくことが必要である。また、対話を通してさらに学びを深めていくために、話し合い活動で友だちの意見と比較して発表できる子どもを増やしていく必要がある。そして、聖和スタンダードを基盤として、ICT機器とりわけタブレットPCの効果的な活用法をさらに研究していく必要がある。